

平成 24 年 1 月 21 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム

平成 24 年 第 1 回講話

あなたの幸せは何ですか？

明けましておめでとうございます。本年もよろしくどうぞお願い申し上げます。

今年の年賀状は「明けましておめでとう」という言葉を使わないものが増えたそうです。そこらへんが、日本人は人様に対する配慮があって良いなと感じました。

先ほど代表幹事が、幸せについて話をされました。「ALWAYS 三丁目の夕日」という映画が公開されました。その中で、「幸せって何なのでしょうなあ・・・」という科白があります。それぞれの幸せを考えるきっかけにして貰いたいという、監督の想いが込められていると感じます。映画の時代背景となっている昭和 39 年は、今の日本の中心を担っている人たちにとって、心の故郷になるような年だと思います。新幹線や東京オリンピック等、日本人が行け行けどんどんで進んでいく時のエネルギーの源になった一つの大きな節目の年であるということで、監督は昭和 39 年を選んで映画化をしたのだと話していました。

今年は「幸せ」という言葉が色々なところで語られるだろうと思います。中齋塾で学んでいる皆さんは、幸せとは何か？ と質問されることがあると思います。自分の幸せは何か、幸せの中身は何か・・・今年はこれを何度も自問自答してみると良いでしょう。

皆さんにお聞きします。「あなたは今、幸せですか・・・？」

やはり心が満ち足りていないと、なかなか幸せにはならないと思います。幸せは無くなってはじめて、あの時は幸せだったなあと思うものようです。幸せは身近にあります。身近にある幸せを、幸せだと感じる。日本人はその感受性が非常に豊かな民族です。そして幸せを考える時に、一緒に言霊についても考えるとよいでしょう。

素読の注意点

先ほど会員さんに論語の素読をして戴きました。大分読み込まれたなと感じました。非常に結構だと思います。

素読の読み方、話の仕方についてアドバイスを申します。

佐藤一斎の『重職心得箇条』の中に、「重職にふさわしい人は言葉遣い・服装・動作に気

を配り、人格の重みが自然に伝わるようにせねばならない」という文章があります。私は素読をする時、自分が強調したい所は少し強めに言い、相手にきちんと伝えたいと思う部分はゆっくりじっくり読むようにしています。以前は、早口ですらすらと読んでいたのですが、途中で、自分一人で読む時と、人さまに向って素読をする時とで読み方を変えました。例えば自己紹介をする場合でも、「私は です」と早口で言うのと、「私は

 です」と言うのでは、印象が違いますね。自分自身の話の仕方や言葉遣い、態度が相手にどう印象を与えるか。それを意識しながら話をしたり、素読をすると良いと思います。

素読をする場合、最初はよく読み込むこと。そうすると中身が大体分かります。中身が分かってきたら、自分の強調したいところをゆっくり大きな声で読むとよろしいでしょう。

もう一つ、読み方について申します。素読を実践している団体では、大体どこでも「大きな声を出しましょう」と教えています。つまり腹から声を出す。それは腹式呼吸をしましょうということです。

私はそれにプラスして、「目線を若干上に上げましょう」と付け加えています。それは氣というものの考え方です。氣当てという言葉をご存知でしょうか。離れた相手に氣をあてて相手を倒す武道や、痛い部分に手（氣）を当てて痛みを和らげるといった療法を聞いたことがあると思います。いずれにしても氣を出す時には、目線をやや高めに持つ。下を向いては氣が出ません。目線は上で、なるべく遠くを見るとパワーが倍増します。それに言葉をつけると更にエネルギーがみなぎるのです。

そして姿勢を正す。姿勢が悪いとなかなか力が出ません。特に今は寒いですから、歩く時も背中が丸まって老人のようになってしまいます。胸を張って歩くことによって大股になり、手を振るようになりますから、健康には非常に良い。素読をする場合も同じです。腰骨を立てて背骨をピンとして胸を張ってください。

以上、素読の際の三つの注意点を申しました。素読をしているところでは大体、「大きな声を出す」「姿勢を正す」と教えていますが、氣の出し方（目線を上げる）については特に言っていないと思います。どうぞこの三つを意識して、素読を続けられるようお願い致します。

幸せの呪文

では、恒例を質問を致します。

今年に入ってから、嘘をつかなかった方？

リップサービスや人さまの為になるような嘘は外して結構です。

今年に入ってから、有難うと言ひ・有難うと言われた方？

昨年私は寝る時に、今日は有難うと言われたかな？ とすんなり思い出せないことが結構ありましたので、今年是有難うと言われたら、<おめでとう！ あなたに表彰状をあげます>と心の中で言うようにしました。そうすると夜寝る時に、表彰状をあげたのは誰さんで、あの場面だなとすっと思い出せます。今日は一日、何人の人に有難うの表彰状を差しあげられるかなと思っています。

今年に入ってから、今日は良い日だったと思う日々が続いている方？

疲れてすぐに寝てしまったという人は、朝起きた時に、昨日寝る時に呪文を唱えてなかったなと考えていただくと、すっとうてきます。それを繰り返していると、幸せだな...とどこかでしみじみ感じると思います。

今年に入ってから、健康法を実践しておられる方？

私は毎朝、真向法をやっています。年配の方にも非常に良い動作です。朝、真向法の動作をすると、とても心地よい満足感が得られます。これも幸せに繋がるものです。

今年一年、どうしてもチャレンジしてみたいと思うものがある方？

人間どうしてもやりたいものがあれば、それに向って無意識のうちにどんどん努力をし、行動し、周りの人が応援してくれるようになります。出来たら良いなと思うくらいでは、あまり出来ない。どうしてもやりたいという力が入ってくると、その方向に進んでいきます。今、どうしてもやりたいものが浮かばない方は、ここ2、3日で考えてみるとよろしい。それが幸せに直結をします。

紹介書籍

先ほど少しお話しした『重職心得箇条』（深澤賢治著 小学館）は、中斎塾フォーラムの前身でもある悟道会で、佐藤一斎の「重職心得箇条」の解説を約1年続けておりました。小泉さんが首相の時に、田中真紀子さんが外務大臣として不適切な言動が多いので、「重職心得箇条」を読んで心構えを勉強して欲しいという願いをこめて渡した、という話が話題になりました。その時、出版社の編集長がネットで私の悟道会での講話を見つけて、本にしたいという申し出があり、1ヶ月くらいで書き下ろしました。

もう一冊は、曾野綾子さんの『生活の中の愛国心』です。今、本屋さんに行くと、曾野綾子さんの本が4、5冊並んでいます。曾野綾子さんは一時期、目が見えなくなったことがあったそうです。本当に目が見えなくなって、字も書けなくなったら、自分は按摩さんで食べていこうと決意をしたのだそうです。幸い良い目医者さんに出会って治ったのですが、色々な困難を乗り越えて来られた方です。結構辛口のことを書いておられるので面白いし、

読んでいてためになります。

論語解説

本日は、子罕第九 13～22 です。

【十三】 子 九夷に居らんと欲す。或ひと曰く、陋しきこと之を如何にせんと。子曰く、君子 之に居らば、何の陋しきことか之れ有らんと。

九夷とは未開地で風俗の乱れた所です。中国本土から見ると、朝鮮や満州や日本はその当時、九夷に属します。ですから日本人は未開地の野蛮人と見られていたようです。

孔子が九夷の地にいたいと願った。或る人が、九夷のような風俗の乱れた土地はどんなものでしょうか、と聞きました。

孔子が答えて言うには、君子がその土地にいれば、自分自身の感化力で周りをどんどん変えていくから、むさくるしいことは何も問題ではない。

その人がいることによって、どんどんその土地が良くなってくると理解してください。

論語に限らず古典を読む際は、現代に置き換えて考える習慣をつけるとよろしい。尚且つ、自分自身や自分の身の周りに置き換えられると、更に具体的になります。

自分が未開の地に到着したとします。周りは野蛮人ばかりです。しかしながら自分の感化力で少しは良くなると思えたなら、やはり人々に何か教えると良いでしょう。西郷隆盛は奄美大島に流刑されましたが、島民の窮状を救って島民から慕われるようになり、奥さんも得ています。また、沖永良部島に流された時は、島民に勉学を教えたと言われていました。自分が風俗の乱れたところ、もう少し努力をしなければいけないと思うようなところに行ったら、自分の感化力を大いに活かすべし。そして自分の感化で周りが良くなってくると、更に自分自身のエネルギーが増します。

日本の国に当てはめて考えると、日本は今、政治・経済・社会がどんどん乱れています。乱れた中にいると自覚をしたなら、政治家であれ、官僚であれ、財界人であれ、上の方にいて日本の国を引っ張ろうと思っている人たちは、自分の力をどんどん発揮して日本を良くする動きをして欲しいと思います。「君子 之に居らば、何の陋しきことか之れ有らん」という論語を大いに活用すべしだと思います。

【十四】 子曰く、吾 衛自り魯に反り、然る後 樂正しく、雅頌 各 其の所を得たり。

孔子が衛の国から故郷の魯に帰ったのは69歳の時です。

孔子が衛の国から故郷に帰ってみると、魯の国の音楽は非常に乱れていた。混乱している音楽をきちんと正しく直して、本来の整ったものにした。

先日、東京フォーラムの会員さんから紹介されて「カルテット」という映画を観ました。その方は浦安市に住んでいるのですが、浦安市も震災後の液状化で大変でしたから、記念の映画を作りたいということで市民全体がこの映画を応援し、エキストラとしても参加したそうです。映画の内容は、不和でばらばらになりかけていた家族がカルテットを組み、地元の人たちに演奏を披露し、家族の心が一つにまとまっていくというものでした。「楽正しく、雅頌 各其所を得たり」という部分が、そのままだと感じた映画でした。

【十五】 子曰く、出でては則ち公卿に事え、入りては則ち父兄に事え、喪の事は敢て勉めずんばあらず、酒困を為さず。何か我に有らんや。

孔子が言うには、朝廷に出たら身分の高い人に仕え、家庭では父兄に仕える。葬式では一所懸命努めなければいけないし、お酒を飲んでも乱れない。そういうことは自分にとっては何でもないことだ。

孔子はいくらお酒を飲んでも乱れなかったそうです。安岡正篤先生も酒豪で沢山飲むけれども、席は乱れなかったといえます。

仕事はきちんとこなして、上司の言うことをよくきく。家庭では妻子の面倒をよくみて、父兄がいれば孝養を尽くす。葬式では一所懸命努める。・・・そういうことは自分にとっては何でもないことだと孔子は言っていますが、自分自身を振り返ると、なかなか難しいと思います。

「喪の事は敢て勉めずんばあらず」の部分で、木内信胤先生を思い出しました。「死ぬ時はりっぱに死んでみせるよ。この世とあの世は一跨ぎだからね」とおっしゃった言葉が記憶に残っています。仏教に「俱会一処」という言葉があります。よく考えてみて下さい。

【十六】 子川の上 に在りて曰く、逝く者は斯くの如きかな。昼夜を舍かずと。

孔子が自分の不遇を嘆いて嘆息しています。

孔子が川岸に立ってため息をついた。やりたいことが出来ないうちに年をとってしまっ

たな。川の水は昼夜を舍かず流れていくよ。

【十七】 子曰く、吾未だ徳を好むこと、色を好むが如くなる者を見ざるなり。

孔子が言うには、私は未だ女性を愛するほどに徳のある者を愛する人を見たことがない。

皆さんはどうでしょうか。好きな女性よりも、徳のある人物の方に寄って行かれるでしょうか。

【十八】 子曰く、譬えば山を為るが如し。今だ成らざること一簣なるも、止むは吾が止むなり。譬えば、地を平らかにするが如し、一簣を覆すと雖も進むは吾が往くなり。

学者が学問を途中で止めてしまうと、修行が無駄になってしまう。例えば、山を作るようなものだ。更に一籠の土を運べば山が完成するのに、それが出来ないのは自分自身が労を怠り止めてしまうからだ。

例えば初めて山を作る者が、平地に一籠の土を盛り始めるようなもので、一籠の土は少ないけれども、それをひっくり返していけば山はどんどん大きくなっていくものだ。

途中で投げ出してはいけないということです。何かやろうと思ったなら、自分の意思で前に進んでいってくれぐれも止めようと思わない。継続は力なりとお考えください。

野田さんは、消費税増税をどんどん推し進めようとしています。時期が悪い。このあたりを誤解しているのではないかと感じます。

【十九】 子曰く、之に語げて情らざる者は、其れ回なるか。

顔回は私の話を聞いていて、少しも飽きたような顔をしない。欠伸もしない。私が教訓めいた話をしているのに、目を輝かせて聞いている。それは顔回が私の言葉以上のものを理解しながら聞いているからだろう。

顔回は凄いなあ...と孔子が賞賛しています。

その顔回（顔淵）が死んだことを、孔子が嘆いた文章が次です。

【二十】 子顔淵を謂いて曰く、惜しいかな。吾その進むを見るなり。未だ其の止むを見ざるなりと。

顔淵が早く死んだのは実に惜しいことだ。学問が日に日に進んでいる状況を私は常に見ていたけれども、顔淵が途中で学問をやめたのを見たことがない。顔淵が死んだということは、私の志が途中で潰えたことで、実に残念だ。

【二十一】 子曰く、苗にして秀でざる者有るかな。秀でて実らざる者有るかな。

若い時に非常に優秀だった者が、大人になって普通の人になることはよくある。中高年になって、学んで一所懸命活動をしていても、人格が完成しない者がいる。秀でたら実ってもらいたいものだ。

会社を作って順調に大きくなった頃、たいがい誘惑があるものです。異性からからの誘惑だったり、分不相応な物を欲しくなったりします。ある程度世の中に出てくると、誘惑が多いからわきまえなさいということです。

【二十二】 子曰く、後世畏るべし。焉んぞ来者の今に如かざるを知らんや。四十五にして聞こゆること無きは、斯れ亦畏るるに足らざるのみ。

自分より後に生まれた人たちは氣をつけて見て、育てて行こう。これから世に出てくる人たちは、自分が成し遂げたものをはるかに凌駕しないと誰が言えようか。どれだけ伸びるか、誰にも分からない。

しかし四十、五十になっても世間に少しも知られない者は、あまり氣にすることは無い。

自分自身の40代、50代はどうだったか考えてください。あまり世間に知られていなかったなと思ったら、これからも努力すればよいのです。実年齢だけでなく、精神年齢でもよいと思います。ですから40代、50代はちょうど発奮材料だけれども、それを過ぎても尚且つと考えればよいでしょう。

周りの40代、50代の方を見て、自分自身の40代、50代の頃と比べてみるとよいでしょう。又、自分の同年代の人や、一回り二周り上の人を見て参考にすればよいと思います。ちなみに私が参考にしている人は、中斎塾フォーラムの顧問の先生方です。

先ほどご紹介した曾野綾子さんは、自分は若い頃から無理はしなかったし大病もしなかったけれども、骨が脆くなったりして本当に年をとったという実感を持ったのが75歳だった

た、と書いています。やはり、体力的には75の坂を超すとガタンと落ちるようです。周りの方の話の聞いても、60歳になったばかりはさほど気がつかないけれども、65を過ぎるとガタンとつるべ落としのように体力が落ちるのを感じる方が多いようです。60代も70代も80代も、半分過ぎた時は大きな山だと感じます。

論語は、まず大きな声を出して読んで、自分なりに納得できる文章を見つけ、それを自分自身のものにする。そして人さまの前で読む時は、読み方を工夫してみる。人さまから聞かれたなら説明ができる。そして相手が納得できれば、更に自分自身のものになります。その繰り返しで、論語がわがものになっていくのです。

次に、論語の中身を今の時代に置き換えて考える。日本の社会や世界の動き、自分自身の地域、自分の家庭、自分自身に置き換えてみればよろしい。どうぞそういう読み方をお願い致します。

どうしてもやりたいものがありますか？

新年早々に湯島聖堂の文化講演会がありまして、今年はスカイツリーの建築にあたった大林組常務の浦さんという方の話を聞いてきました。

大林組はスカイツリーの建築を是非とも受注したいと思っていて、それが叶ったわけですが、受注したからには絶対に事故を起こしたくない、その一念だったそうです。ボルト一つでも落とせば下では大惨事になりますから、絶対に物を落とせない。色々考えた結果、鉛筆一本も紐に結わえて身体に括りつけておいたそうです。自分が落ちない限り大丈夫ですから、身体中にそういう紐を沢山付けて工事をしたそうです。

スカイツリーの高さは634メートル、武蔵の国という語呂合わせで覚えやすい数字にしたと言っておられました。これにはライバルがあって、上海に建築中のビルが600m以上なので、それを意識して世界一を狙ったそうです。東京タワーは333メートルで、スカイツリーの第一展望台が365mですから、かなりの高さです。東京タワーの土台は四角形でがちり出来ていますが、スカイツリーは三角形なので非常に不安定なのだそうです。不安定なものを安定させるにはどうしたら良いか、色々な知恵や工夫が注ぎ込まれたそうです。

3.11 震災の時は、まだ耐震装置が間に合わなくて、展望台のあたりは震度5とかなり揺れたそうです。その時のビデオも見せて戴きましたが、つかまってやっと立っている人もいましたが、床にうつ伏せになってそのまま動けない人もいました。幸いクレーンには耐震装置がついていたそうですが、あまりの揺れに、もしクレーンが落ちたらと非常に気になってならなかったそうです。幸いにして3.11の地震も無事で、工期中も大きな事故もなか

ったということで、ほっとしていると言っておられました。

私はなぜスカイツリーの施主が東武鉄道で、業平橋に決まったのか、なぜ建設会社が大林組だったのか気になっていましたので、話が終わった後に質問をしました。大林組が受注をしたのは、何が何でも取りたいという営業の成果で取ったのだと分かりました。候補地に関しては、他に大宮や池袋や秋葉原等があったそうですが、その中で東武鉄道はちょうど自社の所有地をどう活用するか思案していたところで、名乗りを挙げて熱心にアピールをした結果ということのようでした。今の時代はやはり提案がきちんとできないといけないのだと思いました。

ただ、私は提案に際しては、その会社の思想・哲学がもっともっと反映されなければいけないと思っています。実は東武鉄道に関して、私はあまり良い印象を持っていません。他の鉄道会社がしているようなサービスをしているとは思えません。今回のスカイツリーの入場券にしても、沢山の来場者が見込める最初のうちは料金を高く、人が少なくなったら値下げをすると堂々と言っていますが、おかしいと思います。

世の中はどんどん変わっていきますので、ライバル会社がないというのはあまり良いものではありません。ライバルがいないと切磋琢磨しませんから、本人たちは良いつもりでも中身はどんどん悪くなり、時代に取り残されてしまうと感じました。

ということで、スカイツリーの話聞いて感じたことは、どうしても仕事を取りたいという執念と、絶対に事故を起こしたくないという執念です。やはり人間は、どうしてもという気持ちがあれば前に進んでいくのだと思います。

ちなみに私は、どうしても実現させたいと思っていることがあります。私は渋沢栄一の『論語講義』に触発されて論語をどんどん読み込んでいきましたので、それに倣って『論語講話』を書きたいと強く思っています。今、お話をさせて戴いている論語の話の話をベースにして、一段落したところで本にするつもりでいます。どうしても実現させたいと思うものは、一生の間にどうしてもと思うものと、今年一年間でどうしてもと思うものがあれば良いなと感じます。

時事問題

スカイツリーの話をしてしまったのは、非常に世間で騒がれているし、今年一年間はスカイツリーがらみの話題が多いと思うからです。ただ、なぜ今、スカイツリーなのかと思っています。中国でよくやる手ですが、国内で問題がある時に、外国との紛争を起こして国民の目を国外に向けて、自分の国を大事に思わせるような動きを進めます。ですから、スカイツリーに目を向けている間に、何か日本政府はやろうとしているのではないかと感じ

ます。国民にとって悪いことをどんどん進めようとしていますから。消費税や税金にしても、自分の身を削らないで税金だけ上げるのはとんでもないことです。

日本の国はどんどん増税路線を歩んでいます。「増税が決して悪いとは言わない」と大概皆さんは言われますが、増税は悪いと思っています。日本はこれからスタグフレーション（不況下における物価高）に入っていくと思います。マスコミは今、デフレとインフレが混在していると解説していますが、デフレとインフレが混在している状況の先にあるものは、消費税アップを実行し、それが引き金になってスタグフレーションが始まります。国債は売れなくなり、その先に出てくるのはデフォルトです。日本の国が借金の踏み倒しをする。当然世界は混乱しますから、世界の経済恐慌が起きる。経済恐慌が起きれば、否が応でも日本は戦前の暮らしに戻らざるを得ない。そこらへんの図式が明確に見えていますので、どうしても今年は準備をする年回りになります。

今、不思議で仕方ないのは、野田政権はなぜあれだけ増税路線を突っ走るのか。何度もお話していますが、山田方谷の「理財論」にあるように、国が滅びる時は税金を苛酷に取り立てる時、風俗が乱れた時、教育が乱れた時・・・これらは全部根っこで繋がっています。

日本の経済は乱れに乱れてきています。皆さんの周りでも、いつの間にかスーパーが潰れていたり、コンビニが出来たと思ったら潰れていたりしていませんか。野菜の値段が高騰していますが、先日、イオンとイトーヨーカドーが客寄せに野菜の値段を半値にして売り出していました。以前は、そういった目玉商品を目当てに来たお客が他の商品を買ってくれました。ところが最近、目玉商品だけを買って帰るお客が増えて利益が上がらない。これからは国内で商売がだんだん出来なくなって、国外に出て行くような動きが加速すると思いますし、実際イオンはそういう経営方針を出しています。

新聞を読む時に意識する3つのキーワードから、時事問題を見てみましょう。

1、民主党が打つ無様な手

民主党政権は消費税アップを掲げて解散を行いたいというのが最近の主張です。果たして増税が受け入れられるか受け入れられないかなどは考えていなくて、増税ありきの路線です。日本の政治家の動きを見ていると、「国民のために」という言い方をしますが、後で気がつくアメリカの言う通りに実行している。そして5年、10年経つと、その時の経緯が明らかになってくるというパターンです。今回も同じように進んでいると感じます。決して日本の国民のために良かれと思った動きではありません。その縮図が沖縄です。先日

も沖縄に対して田中直紀防衛大臣が素人丸出しの余計な発言をしました。ご本人は口止めをされないまま、ポロッと出てしまったのでしょうか。田中さんの登用は小沢さんに対してではなく、防衛の専門家でアメリカに反抗するような大臣が出て来ては困るので、アメリカに対しての布石のように見えます。

日本の政治家は、日本の国がアメリカにとって都合良い国になって貰うような動きをしています。民主党政権はそれをどんどん進めるから、結果として国力はどんどん落ちていく。私はまだまだ落ち方が足りないと思っていますから、今年も転がり続けるでしょう。

2、国債の動向

ユーロ圏における通貨危機が深刻です。アメリカの格付け会社が、フランスやイタリアやドイツの国債の格付けを落とすという発表をしました。当然、ユーロ圏の相場は落ちます。スペインやポルトガルは駄目ですね。日本の国債が駄目になるのが先か、アメリカの国債が駄目になるのが先か一時期騒がれましたが、今やアメリカと日本とユーロ圏各国がデフォルトの先陣競争をしているように見えます。IMFなどが一所懸命小細工をしてデフォルトにならないようにしていますが、経済危機の流れはもの凄い勢いですから堰き止められません。遅くてもここ数年の間、早ければ今年のうちには経済危機は起きるだろうと感じています。

国債の動きは日本だけを見ていたのでは間に合いませんから、世界各国の国債がどう動いているかを意識する必要があります。日本のマスコミは、格差社会だとか貧困、生活保護といった報道ばかりで、あまりこういう報道を出しません。

ちなみに2010年度の生活保護費が3.3兆円という数字が出ていました。下手をすると5兆円、10兆円と駆け上がっていくのではないかと感じます。そういう点から推して、日本の大金持ち・中金持ちは今、自分の資産を国外に移している最中だと思います。ここ数年で大体動かされるのではないのでしょうか。大企業は既に資産を動かしていますから、個人の資産にシフトしている状況だと思います。

3、自然災害

中国では人から人へ感染する強毒性の新型インフルエンザが爆発寸前まで来ていると聞きました。人 人感染が始まった途端に1週間くらいで全世界に広がっていく、と言われていたのが昨年です。今年は人 人感染の寸前に来ているので非常に危険度が高まった、という話を私共の仲間である中斎塾フォーラムの参与からお聞きしました。

ですから我々としてはマスクの準備、それから生活習慣です。今は入り口に消毒液が置

いてあるところが増えました。意識して手を消毒する癖をつけることと、家庭にも置いて手を消毒する生活習慣を身につけてください。着る物については、外で着る物は屋外で脱いで、家の中にウィルスを持ち込まないようにする。そういう仕組みにだんだん切り替えていった方がよいでしょう。下手をすると今年、強毒性の新型インフルエンザが来る可能性があります。

他にも、自然災害の回避という面で、どうぞ今年一年で自給自足の色々な準備をされるとよいと感じます。

時事関係で、最後にもう一つお話しします。

今年是世界各国が揺れ動く年です。世界各国のトップが替わります。同じ人が再選されるかもしれないし、違う人になるかもしれない。ロシアもそうですしアメリカもそうです。台湾は決まりました。日本はしょっちゅう替わっていますが、日本もそうです。とにかく世界のトップクラスが替わる年、揺れ動く年です。

日本はどうか……。言行一致でぶれない人がいいですね。野田さんは2009年の衆議院選挙の時には、消費税を上げると役人や官僚やらのシロアリが寄ってたかって食い潰すから、消費税アップはよくないと言っていました。それをころっと前言撤回して、消費税増税を言っています。そろそろ起きるであろう解散総選挙に対して、国民は厳しい目を持って見ていく必要があると思います。石原都知事や橋本市長らの動きが注目されます。

本日の講話は以上です。有難うございました。